

インターンシップ(学外実習)に関する報告書

平成 28 年度

沼津工業高等専門学校

目次

1.	インターンシップ参加者と公募数の推移.....	3
2.	平成 28 年度インターンシップ打ち合わせ会.....	4
3.	インターンシップ事前研修.....	6
4.	インターンシップ受入機関からのアンケート集計結果.....	7
5.	記述式質問 7, 8, 9 のまとめ.....	9
6.	インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果.....	12
7.	学生からの意見・感想.....	15
8.	「静大発“ふじのくに”創生プラン」事業における沼津高専の取組み.....	17
9.	3 年生対象のインターンシップ説明会.....	18
10.	インターンシップの総括.....	20
付録 1.	平成 29 年度インターンシップスケジュール（予定）.....	22
付録 2.	学外実習生学生心得.....	23

1. インターンシップ参加者と公募数の推移

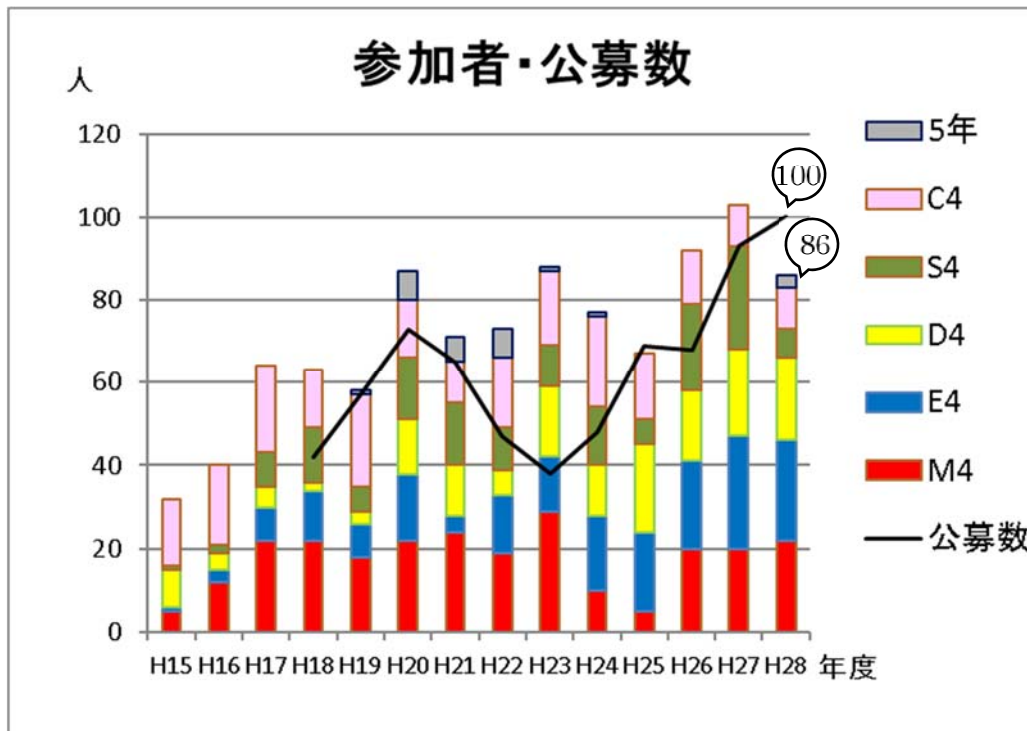


図1 インターンシップ参加者の推移

図1に、平成15年度から14年間にわたり、沼津高専からインターンシップに参加した学生数および、平成18年度以降の公募数の推移を示す。M、E、D、S、Cはそれぞれ、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科、その後の数字は学年を意味する。5年生は参加者が少ないので、5学科をまとめた。公募数は、縦軸の人数を件数に読み換える。

参加学生の推移の、主な特徴を以下にまとめる。

1. 今年度、公募数が100件に達した。これは、昨年度より企業説明会の解禁が3月になり、実質的な企業のPR期間が3ヶ月に短縮されたことに起因すると思われる。すなわち、早期に学生に会社での業務を体験させ、その会社のアピールをしようとする動きが活性化したとみられる。同時に、インターンシップに関する業務の効率化の影響もあると考えられる。
2. それに対し、残念ながら今年度は3年ぶりに参加学生が減少に転じた。原則、就職希望者のみ参加するよう指導している学科もあり、就職希望者が少ないことが一因であると思われる。また、年度による学生の気質がかなり異なることも影響しているようである。さらに、4年生を担当する教員の考え方の違いもあり、インターンシップの指導がその学科にほぼ一任されていることも、参加人数の変動に影響していると感じる。何らかの工夫が必要である。

2. 平成 28 年度インターンシップ打ち合わせ会

平成 28 年度の初め（平成 28 年 3 月 30 日）に、インターンシップに参加する学生の大半を占める第 4 学年の担任教員を対象として、インターンシップ打合せを実施した。以下にその議事録を示す。なお Moodle とは、無料の e-Learning プラットフォームであり、学生や教員が情報共有のために活用している。また、丸印は重要項目、青字は配布資料への、議事録としての追加部分を意味する。

配布資料：[H26&H27 年度打ち合わせ会議事録](#)、[H27 年度インターンシップ（学外実習）に関する報告書](#)、[インターンシップ応募までのフロー図](#)

下記 1.~3.について、順に内容を補足しながら三谷教員が説明

[1] Moodle のコース「インターンシップ」におけるインターンシップ情報

※ 学生課の佐藤さんが管理・作成

(0) 更新情報

(1) 佐藤さんからの学生へのメッセージ

(2) 学校公募 募集企業：学生が希望した場合は[担任が](#)メールで佐藤さんまで連絡（先着順）

その後、学内締切までに必要書類（履歴書・学外実習推薦書等）を作成して担任が提出する。担任が不在の場合は代理の教員でも可。

学内メ切は、学内処理および郵送に 1 週間を要するため、企業のメ切日より少なくとも 1 週間前としている。

※ 「インターンシップ応募までのフロー図」をよく確認してください。

[学校応募および学科応募（2 パターン）について説明](#)

(3) 実施状況（過去 3 年分）

(4) 関連書類：ダウンロード可 ※履歴書・エントリーシートは手書きで

(5) 保険関係：学生は全員加入済み。企業から提出の要請があった場合はプリントアウトし、必要書類と合わせて提出。

(6) 先輩の声：履歴書の作成、学科別の報告会資料、体験談

(7) 勉強部屋：参加学生に必ず実施させる（特にマナーについて）。学習状況を担任が確認する。最低限「学外実習学生心得」「履歴書編」は熟読させてほしい

(8) 説明会研修会資料（2016/01/19 インターンシップ説明会）[新 4 年生対象に開催済み](#)

(9) 報告書：過去 3 年分

(10) インターンシップ学生アンケート

(11) [学科応募 進行状況連絡掲示板](#)：[受入企業に最初に連絡を取った教員が学校の窓口](#)となる。

同じ企業への他学科からの希望は、その教員を通じて企業へ受入れ可否などの連

絡を取る。※企業と連絡を取った時点で忘れずに早急に問い合わせ内容を掲示板に掲載してほしい

(12) 視察関係：次年度以降への申し送り事項として利用。

申し送り事項は視察に行った教員が書き込みをする

手土産の必要性は、各学科や教員が判断する。

⑬ 企業アンケート 会社側からの要望有り。複数年続けて同じ要望を挙げてくる企業もある。一読して今年度の改善に生かしてほしい。

(14) その他資料（報告書・実施状況・募集案内）

[2] 「平成27年度インターンシップに関する報告書」中の、改善点等確認

高専トップページ → 地域・企業の皆様 → インターンシップについて に、報告書掲載済

(近年の傾向・分析)

公募数が急増。企業側が人材確保のよい機会と捉えている可能性が高い。報告書提出や報告会発表の前に企業側のインターンシップ担当者に企業秘密が含まれていないかの確認をする。多くの企業にとってインターンシップはルーチン化されてきている。単位取得を第一目的とした学生も15%ほどいる。何となくではなく、目的・動機をしっかりと持って実習に取り組むよう指導を。実習内容について、見学が減少し、実技が増加した。プレゼンを実施する企業が増えたため、今後はプレゼン指導も必要ではないか。

[3] その他

- ・今後は月に1回程度、三谷教員が各担任に状況を確認する予定
- ・Web エントリーについては、文書の内容について事前に担任の指導を受けるようにする。Web エントリーの入力画面を必ず印刷しておくように指導する。
- ・エントリーシートと履歴書を2つとも提出するかどうかの判断は、それらの内容を見て適宜判断する。
- ・参加者全員対象の事前研修会以前に、各学科単位で事前説明会（プレゼン方法含めた）をやっていたければよいのでは。
- ・moodle「インターンシップ」を毎日チェックしてください。
- ・「学校公募」の中に、企業および大学からの公募情報が含まれている。

(意見)

- ・今年度は夏季休業期間が変更されたため、企業側と実施時期を交渉する必要がある。
- ・「インターンシップ」と「就職」については切り離して考えた方がよいのでは？
- ・実習時の服装について

3. インターンシップ事前研修

インターンシップへ参加が決定した学生および、参加を希望する学生に対して、下記要領で夏休み前に事前研修を行った。

インターンシップ事前研修会

- 1) 日時：2016年7月6日（水）14：50～15：50
- 2) 場所：視聴覚教室
- 3) 内容：
 - 14：50 研修会に参加するにあたって（インターンシップ担当教員）
 - 14：55 諸注意（教務主事）
 - 15：00 ガイダンス（インターンシップ担当教員）
 - 15：30 質疑・応答
 - 15：40 終了
- 4) 配布物：なし

上記3)の内容を以下にまとめる。

<研修会に参加するにあたって>

インターンシップは、進路を決める重要なイベントの一つである。重要な話がたくさんあるので、聞き漏らしの無いように、集中して話を聞くこと。

<諸注意>

今日の参加者は、そのほとんどが就職希望者である。将来のために会社での仕事を体験するのは、ミスマッチを防ぐためにも大切なこと。インターンシップへは、沼津高専の代表として参加することを忘れない。挨拶や服装、態度や行動に注意し、学生らしく振る舞う。勝手な行動は慎む。来年度の就職につなげて欲しい。

<ガイダンス>

- ① 知的財産を守る
- ② 平成27年度企業アンケートの紹介
- ③ インターンシップ実施までにやるべき事
- ④ 参加時の持ち物
- ⑤ インターンシップ参加までの受入機関との連絡における注意事項
- ⑥ インターンシップ参加時の注意事項
- ⑦ ビジネスマナー、挨拶の仕方
- ⑧ その他の心構え

4. インターンシップ受入機関からのアンケート集計結果

平成 28 年 9 月、本校インターンシップを受け入れて下さった機関に対し、下記のアンケートをお願いした。なお、このアンケートは平成 18 年から 11 年間、同一内容で実施しており、その 11 年分の集計結果を図 2 に示す。

沼津高専のインターンシップに関するアンケート回答用紙

貴社名 _____ 所属部署名 _____

記入者名 _____ E-mail _____

質問 1. 記入者の方は、インターンシップにはどのように関わりましたか？

→人事課系（主に手続きや企画を担当）、現場系（主に学生の直接指導を担当）

（5 択）

質問 2. 本校から参加した学生は、実習に積極的でしたか？（複数名参加の場合は平均値）

→非常に積極的、積極的、普通、消極的、非常に消極的

質問 3. 本校から参加した学生の能力は、高いと感じましたか？

→非常に高い、高い、普通、低い、非常に低い

質問 4. もし来年度も、本校の学生が御社を希望した場合、受け入れて頂けますか？

→是非募集したい、希望があれば、検討したい、難しい、遠慮したい

質問 5. 学校側の、インターンシップに関する対応はどう感じますか？

→非常に丁寧、まあ満足、必要最小限、不十分、大いに検討改善を希望

質問 6. インターンシップの企業としてのメリットは感じますか？

→大いにある、多少ある、学生による、あまりない、全くない

（以下文章形式）

質問 7. 今後、インターンシップに参加する学生に伝えたい事があれば、お書き下さい。

質問 8. インターンシップ実施に関して、ご要望・ご質問がございましたらお書き下さい。

質問 9. その他何かございましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただきありがとうございます。

お手数ですが、E-mail または、FAX にてご返送いただくと幸いです。

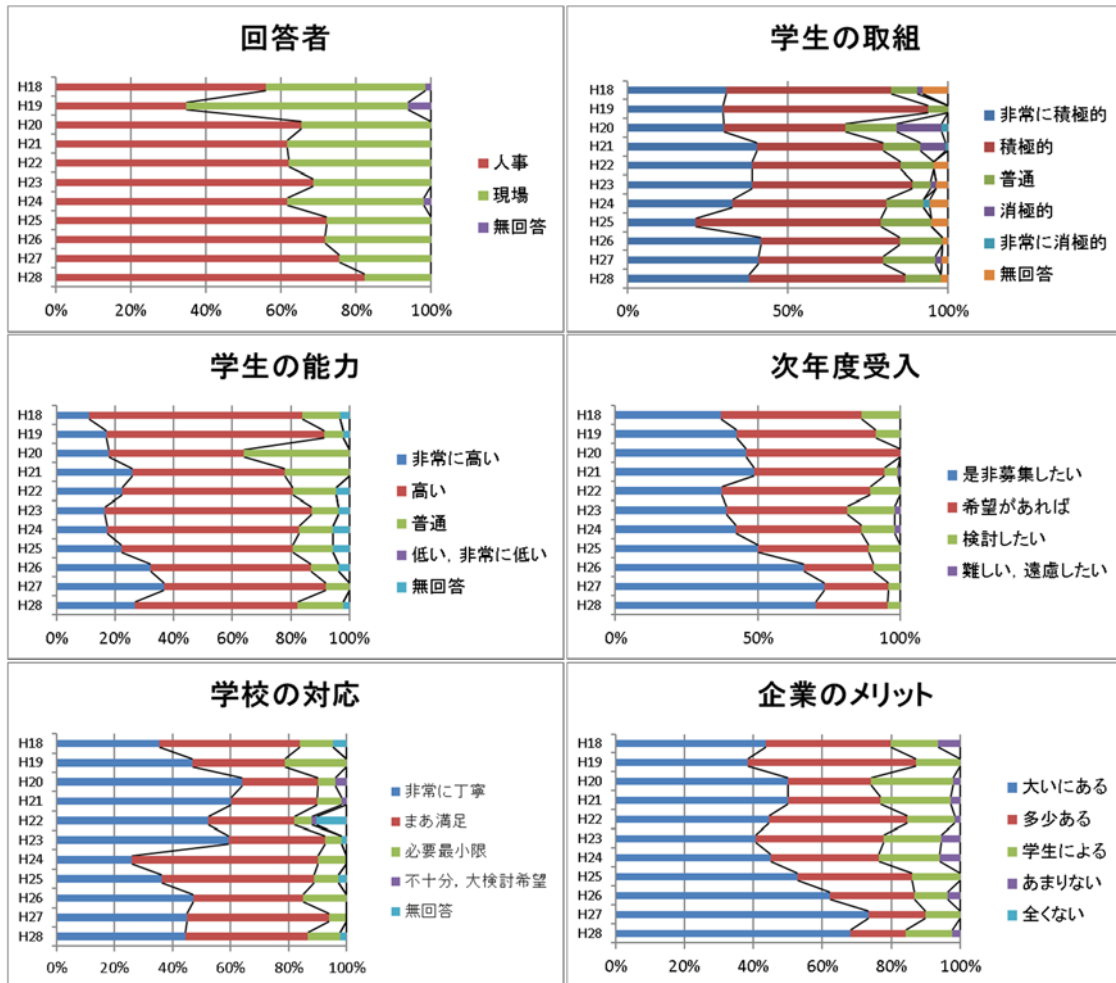


図2 受入機関のアンケート集計結果

これらのデータより分ることを以下に述べる。

- (1) 人事系のアンケートの回答者が増加傾向にあり、今年度は8割を超えた。インターンシップの公募数が増えたこととかなり関係があると思われる。学生には、将来の進路を考えたいうで、インターンシップ参加先をよく考え、安易に選ばないような指導がますます必要になっていると考える。
- (2) 「学生の取組」および「学生の能力」は共に、積極的・高いという好評価を8割以上の企業から頂いている。しかしその反面、最高評価の件数が共に低下しているのが気になる。インターンシップに漠然と参加している学生の存在と、学生の様子を厳しく見ている企業の姿が、このデータに表れているようにも思える。インターンシップ開始前の事前指導を強化したい。
- (3) しばらく増加し続けていた、次年度受入は「是非募集したい」との回答が、今年度は低下した。やはり、企業からの学生を見る目が厳しくなっているのかも知れない。それが、「企業のメリット」が「大いにある」との回答数の低下にもつながっているように思われる。
- (4) 例年、学校の対応はほぼ満足していただいているようである。引き続き丁寧な対応に心掛けていきたい。

5. 記述式質問 7, 8, 9 のまとめ

記述式の質問項目には、たくさんの企業の方々からご指摘、コメント、感想などをいただいた。それらをまとめ、件数の多い順に並べたものを以下に示す。文頭の数字は回答件数である。なお、質問 9 のその他などに記載されていても、その内容に応じて、該当する質問に対する回答としてカウントした。また、質問 8 における本校への質問や要望については、その会社への回答内容を青字で掲載した。なお、アンケートの趣旨に関係のないものは割愛させていただいた。

質問 7. インターンシップに参加する学生に伝えたいことは？

- 09. 指示されたことをこなすだけでなく、自主的、積極的に行動することを心掛けてください。
- 05. 参加企業についても事前に可能な限り調べて参加していただきたい。
- 02. 少しでも疑問に感じたことがあれば、積極的に質問し、答えだけでなく、その根拠などが理解できるまで聞いてください。
- 02. 目的、動機をしっかりとって参加して欲しいです。
- 02. 単位目的ではなく、興味があるインターンシップ先を探してみてください。
- 01. 他高専の学生との交流を楽しんで欲しい。
- 01. 何か聞きたいことがあるときには、自分の考えをしっかりと伝えられる様、心掛けてください。
- 01. 学校で学習していることと、企業活動で実際行われていることを比較して体験して欲しい。
- 01. 本実習で学んだことをこれからの学生生活や進路検討に活用していただきたい。
- 01. 社会に出る前に企業を覗いておくのは重要な機会だと思います。
- 01. 自分自身が会社に勤めるといった気持ちで臨んで欲しい。

質問 8. インターンシップ実施に関して、要望・質問は？

- 03. 将来の進路選択について真剣に考えている方の参加を希望する。
- 02. 期間が短く実習内容が十分な構成にできない。できれば日程への配慮を頂けると学生へも為になる実習となるかと思う。

Ans1. 募集要項に、最低必要な実施期間等を記載して欲しい。

Ans2. 本校の今年の夏休み期間がインターンシップの実施に支障を来すことは予想しており、何名かの学生は、夏休み後の講義が開始しても、インターンシップ実施中で、その間の講義は欠席した。夏休み期間は毎年、学校の中の様々な条件を考慮して決定しており、多少流動的である。来年度は、上記の問題を踏まえ、多少改善される可能性が見込まれる。しかし、どうしても日程が合わない場合があるので、その際は何らかの配慮をお願いしたい(参加学生が非常に熱心に取り組んでおり、日程の都合で、1週間で終了することを大変残念がっていた、とのこと)。

01. 専門的なカリキュラムを実施するので、事前に学生のスキルレベルを把握したい。

Ans. 募集要項に、参加学生に求めるスキルを具体的に記載して欲しい。学生や教員は、募集要項を見てどの学生がどの企業へ行くのかを決めるので、要項が具体的であるほどミスマッチを防止できる。

01. 「実習証明書」について、メールを通じてデータでやり取りができれば、よりスムーズにご連絡ができる。検討して頂きたい。

Ans. 構わない。現在、本校の「インターンシップ（学外実習）証明書」を郵送しているが、その様式で作成しても問題ない。以降、証明書に該当するものをメールに添付願う。

01. 夏季休暇の設定が学校毎に異なっているが、今後の実施日程は、盆明け～約10日間で良いでしょうか。

Ans. 構わない。なお、夏季休暇は年によっても変動するので、可能ならその都度夏季休暇期間を確認し、夏季休暇中にインターンシップを実施して欲しい。

01. 学校側あるいは企画部門から、目的・目標を具体的に表わしていただけるとより良い実習ができると思います。

01. 他受け入れ企業の平均的な実習日数は、どれくらいですか？

Ans. 多くの企業様（約75%）で5日間。本校で単位認定に必要な時間は30時間であり、勤務時間やプログラム内容により4日又は6日での実施もある。また、9日以上の実習期間については、60時間で2単位となる。

01. 受け入れ企業の日当支給額の平均を教えてください。

Ans. 今年度の募集及び応募企業108社のうち日当の記載があったのは13社。うち11社は、交通費補助または食事補助を目的として日当を支給している。支給額は、2千円が4社、千円が9社。なお本校では、授業の一環として学外実習を行っており無報酬を基本としている。

01. 受入期間中に生徒と担当教授との面談もありましたが、今後も期間中の面談をお願いしたい。

01. 夏季休暇の後半に実施したい。8月は暑い場合が多いので、熱中症も気にかかる。

01. 弊社が出したインターンシップ募集要項がどのような形で学生さんに渡すのかを教えてください。例えば事項に学生さんへのメッセージなどを記入したら読んでいただけるのかなど。インターンシップ募集に関してアピール出来る場があれば、と思う。

Ans. ■学生への展開について：募集要項は、全ての4年生と学科教員が閲覧できるインターンシップWEBサイト（Moodle）へ掲載し公開している。学生への紙媒体での配布は行っていないが、指導教員によっては、Moodleから募集要項を印刷し掲示やファイルで学生へ案内をしている場合もある。基本的には、インターンシップを希望する学生が、自らMoodleを閲覧し、希望を指導教員へ申し出る流れとなっている。

■メッセージについて：本校様式であれば、その他の欄に学生へのメッセージを記入して欲しい。また、A4用紙1枚程度のポスターや広告など、視覚効果が高いものを募集要項に添えてもらえれば、Moodleへ掲載が可能である。ただし、冊子形状のものは、Moodleへの掲載

はしていない。

■アピールについて：今年度より、本校ホームページや商工会議所などを通じて、企業から学生へのインターンシップのアピールの場を案内予定。なお例年、5月中旬～6月中旬に多くの企業より募集案内があり、この期間に案内をいただくと、多くの希望学生の目にとまると思われる。

01. 実習を終えた学生さんたちの率直な意見、感想などをフィードバックしていただくと、今後のプログラムの参考になります。

Ans. (以下、学生からのフィードバック例)

1. オーダーメイドの機械の設計手順を説明して下さったが、それが面白かった。仕様、要望が決まっていれば、ある程度誰が設計しても同じような形にきまるのだそうだ。
2. 会社員の方々は各々に自分の仕事にやりがいを見つけて仕事をしていて、やりがいを見出すためにも自分が興味を持てる仕事を選ぶ必要があると思った。

01. 企業が参加できる報告会があると非常にありがたいです。

Ans. 実施は厳しい。たしかに企業の方が報告会に参加すれば、現場のご意見を聞くことができ、より有意義な報告会になる。しかし、受け入れて頂いた企業全てに案内を出し、時間と場所を調整して設定するのは困難と考えている。その代わりになるものとして、事後のアンケートを元に報告書をまとめ、それを受入先のご担当の方に案内している。

01. 受講者に対し、学校経由で会社資料を送付して良いか？

Ans. 問題ない。

質問 9. その他なにかありましたら。

01. 今回はじめて受入れたが、想像以上にプログラミング経験が無かった。且つ日数も少なく職業体験が十分にできたのか疑問が残る結果となった。
01. 今回、本人がインターンシップ直前に退学をした為、受入は中止になりました。当日に来社が無かったので本人に連絡をとったところ退学した事を知りました。貴校からの連絡を頂けていたらと思いました。
01. チームで行うカリキュラムも多いので、コミュニケーションが得意であったり、人と関わる事が好きな方に向いていると思う。

6. インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果

平成 28 年 9 月、インターンシップに参加した本校学生に対し、下記のアンケートを実施した。参加学生に対するアンケートは、平成 18 年から 11 年間にわたり取ってきた。その目的は、学生の意識調査および参加の実体を把握し、次年度実施時の参考とするためである。

なお、以下に示すアンケート項目は、平成 22 年度に、それ以前のアンケートの質問項目を大幅に絞り込み、学生が答えやすく、かつ次年度参加学生に参考となる内容に見直したものである。よって図 3 には、ここ 7 年間にわたる集計結果を示す。通勤方法については、公共交通機関を使用することを原則としているので、今年度よりバイクは選択項目から除外した。なお、満足度のみ 11 年間を通して調査してきたので、合わせて示した。

平成 22 年度より実施したインターンシップ学生用アンケート（集計項目）

- (1) 期間中の宿泊場所
①自宅、②下宿、③社員寮、④ホテル、⑤その他
- (2) 通勤方法
①徒歩、②自転車、③電車・バス
- (3) 通勤時間
①30分以内、②1時間以内、③90分以内、④それ以上
- (4) 主な実施内容
①見学、②研修、③実技、④その他
- (5) 受入企業でのまとめ
①プレゼン、②報告書、③面談、④なし
- (6) 参加した主な目的
①単位取得、②能力向上、③就労体験、④適性探索、⑤その他
- (7) 不足していたと感じる事前準備
①安全・知的財産、②企業研究、③能力・姿勢、⑤マナー、⑥プレゼン能力、
⑦技能、⑧その他、⑨不要
- (8) 満足度
①非常に有意義、②概ね有意義、③あまり意義なし、④全く意義なし
- (9) 成果
①力が向上、②就労体験できた、③適性が分かった、④その他

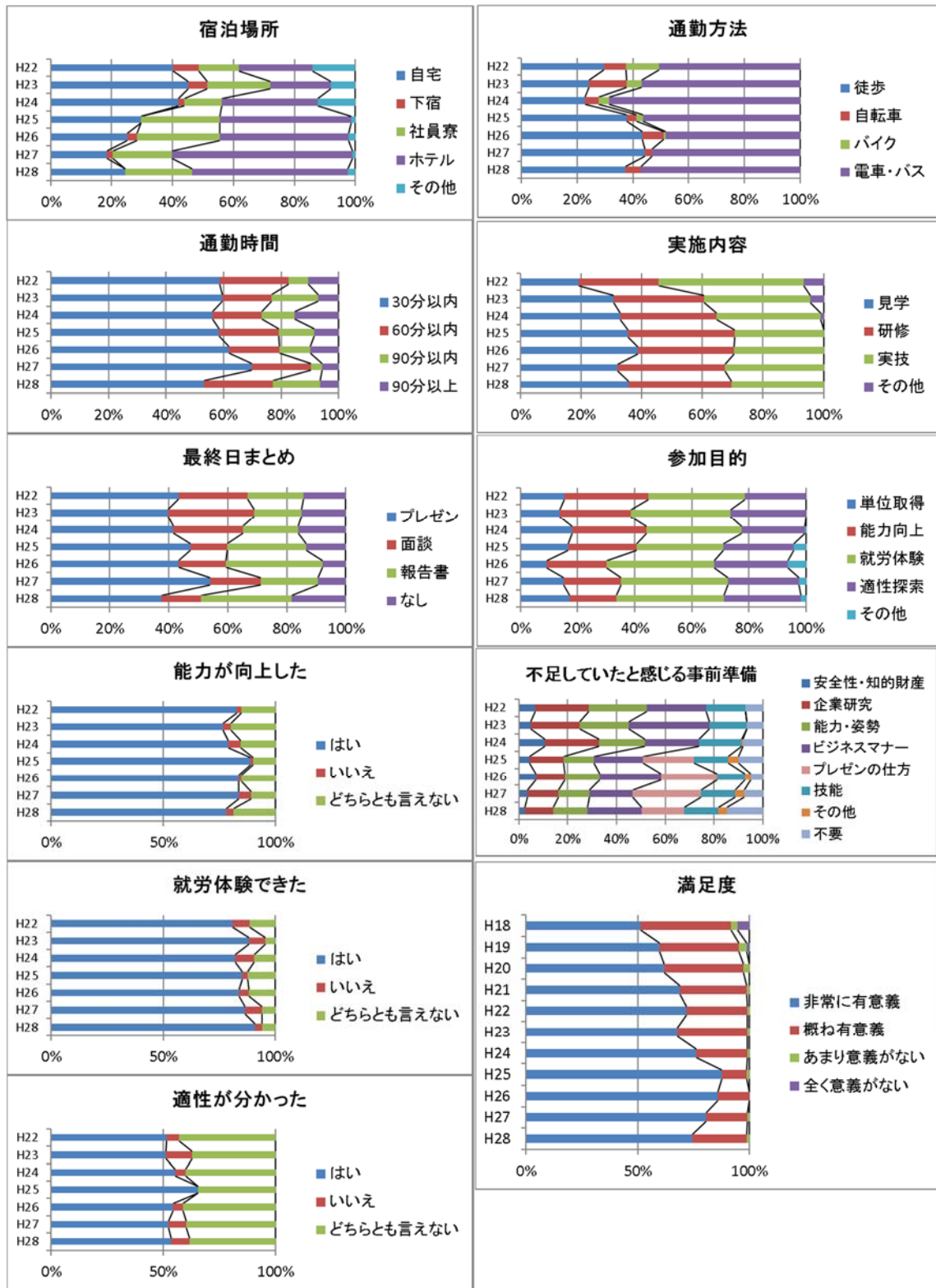


図3 参加学生のアンケート集計結果

(1) 宿泊場所・通勤方法・通勤時間

宿泊場所は、昨年度に引き続き半数以上をホテルが占め、通勤時間は 30 分以内が多い。すなわち今年度も多くの企業が、徒歩または電車で通える距離にあるホテルの宿泊を斡旋し、実施していると思われる。

(2) 実施内容

ここ数年、見学・研修・実技が、ほぼ同数で推移している。学生を送り出す側としては、研修・実技に多く参加し、企業での就労体験をして欲しいと考えている。しかし、学生を公募する企業が増加傾向にあり、実施内容について学校側から要望を伝えるにくくなっている現状がある。したがって学生には、なるべく研修・実技に関する内容を扱う企業への参加を促したい。

(3) 最終日のまとめ

気になるのは、「なし」と答えた学生が 2 割もいることである。事前研修において、最終成果報告を特に指示されない場合は、報告書を提出するか、簡単な面談だけでもお願いするよう指導しているが、充分学生に伝わっていない。次年度は、参加前に学生に、最終日のまとめについて確認させるよう指導すべきと考える。

(4) 参加目的

「就労体験」と答えた学生が最も多く、アンケートを取り始めてはほぼ変化無く 4 割程度であり、そこは評価できる。その一方で、「単位取得」と答える学生が、毎年 1~2 割いるのが気になる。本校の場合、学外実習は選択科目であるため、修得単位数の少ない学生が、インターンシップに参加することが多い。対策として、就職を希望する学生は、インターンシップへの参加は必須であるという意識を高める指導をしていきたい。

(5) 不足していたと感じる事前準備

平成 25 年度より「プレゼンの仕方」という項目を追加した。比較的割合の高い、ビジネスマナーとプレゼンの仕方について、引き続き、担当教員に学生の指導を依頼する。

(6) 成果

「就労体験できた」と答えた学生の割合が増加傾向にあり、好ましいことである。受入企業での熱心なご指導に感謝するとともに、学生の意識の向上に努めたい。

(7) 満足度

「非常に有意義」と答えた学生の割合が、平成 25 年を境に減少に転じたのが気になる。参加目的が不明確なまま受け身で参加し、積極性をもって実施できなければ、満足度は低下する。この現状を次の学年に伝え、改善を図りたい。

7. 学生からの意見・感想

参加学生からのアンケートに、インターンシップに対する要望や実施して気付いたこと、感想などを自由に書いてもらった。以下に、その主な回答をまとめる。

[気付き]

- 1) どの職種でも、お客様とのコミュニケーションが最も大切であることが分かり、自分が足りていないところを明確に知ることができた。また、社会人としての責任や心構えを学ぶことができた。
- 2) 受け入れ先が開発関係の部署だったため、予期しないトラブルも多かったが、毎回連携を取ってスムーズに対処していたところがすごいと思った。また、1つの製品を作ることがどれほど大変か分かった。
- 3) 安全と衛生面にすごく気を使っていた。安全教育にはとても厳しく危険予知活動をしっかりしていることが印象に残った。
- 4) 企業の教育体制など非常に参考になった。授業で習ったことが役に立つことが意外とあった。
- 5) ソフトウェア開発で、会社の人が書いたソースコードがとても印象に残っている。誰が見ても読みやすくまた変更した移転がすぐに分かるなど可読性が高かった。その面でも学生と社会人との差を感じた。また、学校でわからなかったことを理解できたのでよかった。
- 6) 社会人に向けて自分の足りないところを知る事が出来た。知らない仕事を体験すると共に自分の向き不向きを知れた。行って良かった。

[学校への要望]

- 1) 就職希望に限らず、経験としてインターンシップをより推奨しても良いと思う。
- 2) 夏休みの期間が変わったことによる対応も考えて欲しい。夏休みの期間がずれてしまったことでインターンの参加に負担が増えているように感じる。各企業と話をしていただき実習期間を早めるか、もとの夏休み期間に戻して欲しい。
- 3) 報告会のプレゼン発表についてはそのような経験が少なかったため少し困った。プレゼンの基礎などの説明があってもいいのではないか。また、ビジネスマナーをもっと教えてほしい。
- 4) 同じ企業に行ったことのある先輩の意見、アドバイスを聞きたい。
- 5) インターン先・担任・自分の連携をもっとしっかり、滞りなくしてほしい。
- 6) 交通費が出ない企業等インターンシップ先に対しては学校から交通費を出して欲しい。

[感想・成長]

- 1) 非常に有意義なインターンシップで良かったです。

- 2) 将来のことを考える素材としてとても役立った。
- 3) 研修だけでなく、他高専からのインターンシップ生とも仲良くなれてとても楽しかったです。
- 4) 会社についての話をたくさん聞いて良かった。
- 5) また機会がありましたら参加してみたいです。
- 6) 就職に不安を抱えていた自分にとって大変参考になりました。
- 7) 将来について真剣に考える、有意義な時間を過ごせました。社会人として大切なことや、コミュニケーションの重要性を知ることができました。同学科の高専卒の方からお話を聞くこともできて、とても参考になりました。
- 8) 将来の職業選択をする中で、大変貴重な経験をさせていただきました。工場で働くこと、社会人としての責任や心構えを知ることが出来ました。一人ひとりにアドバイスもしていただき、自分について見つめなおすこともできました。
- 9) 会社のみなさんにはとても親切にしてください感謝しています。
- 10) インターンシップ先に就職したいという気持ちがより強くなった。
- 11) 工場勤務に対してマイナスイメージが強かったが、様々な部署で働くことで多くの経験を積み、人生が豊かになるのではないかと思い、自分も工場で勤めてみたいと思った。
- 12) お盆という期間だったのですが、問題なくインターンシップを行うことができました。
- 13) 5日間で丁度良かったと思います。

8. 「静大発“ふじのくに”創生プラン」事業における沼津高専の取組み

文部科学省が地域の活性化のために、平成 25 年度より「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 COC+」を開始した。そして静岡大学は平成 27 年度、「静大発“ふじのくに”創生プラン」と題した人材育成事業を起案し、採択された。沼津高専は、その事業に参画する一機関として、インターンシップの推進に注力し、県内企業への就職の支援活動を、本年度より始めた。その専任スタッフとして、事業推進コーディネータおよび補佐要員を新たに雇い、これまでの本校におけるインターンシップの状況調査と、次年度インターンシップに向けての支援活動を実施している (URL <http://www.cocplus.shizuoka.ac.jp/>)

図 4 に、平成 25～27 年度の 3 年間の、本校からの全就職者数に対する県内企業への就職者の割合の変化を示す。ほぼ 4 割前後にとどまっているが、平成 31 年度には平成 27 年度より 10%増の 55%とするのが、本事業での数値目標である。

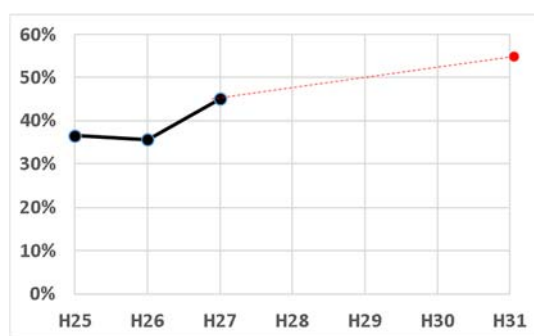


図 4 県内企業への就職率

この目標を達成するために、「インターンシップ交流会」を本年度の 12 月に沼津高専にて開催し、2 月にも実施予定である。これは、平成 29 年度にインターンシップに参加する第 3 学年を対象として、県内企業が実施するインターンシップの内容を学生に直接伝えることができる場である。これにより、県内企業へのインターンシップ参加率を向上させ、その翌年度における就職につなげる狙いがある。もちろんインターンシップは、学生の就労体験として提供されるべきであり、就職に直接結びつくものであってはならない。しかし、学生が県内企業について知る機会が乏しく、学生の就職時に候補に挙がりにくいのが現状である。この事業を通じて、学生が県内企業を知るチャンスを与えられると期待する。

参考データとして表 1 に、インターンシップ参加者のうち、就職した学生の、インターンシップ先への就職率を示す。おおむね 3 割となっており、インターンシップが就職先に影響をおよぼしていることが分かる。

表 1 インターンシップ参加者の同一企業への就職率

年度	H25	H26	H27
就職者数(人)	51	35	52
同一企業への就職(人)	16	9	15
就職率(%)	31	26	29

9. 3年生対象のインターンシップ説明会

受入機関・参加学生から提出されたアンケートを集計した後、次年度インターンシップに参加する現3年生を対象として、下記の要領でインターンシップ説明会を行った。インターンシップの公募は4月早々に始まるので、アンケート結果等も参考に、春休み中に実習先を検討するよう学生に指導した。

インターンシップ説明会

- 1) 日時：2017年1月18日（水）14：50～16：00
- 2) 場所：視聴覚教室
- 3) 内容：
 - 14：50 概要説明（インターンシップ担当教員）
 - 15：05 各学科の実施報告（各学科4年担任教員）
 - 15：45 質疑・応答
- 4) 配布物：なし

上記3)の内容を以下にまとめる。

<概要説明>

ある企業からの指摘，インターンシップとは何か，企業アンケート集計結果，学生アンケート集計結果，インターンシップ関連情報収集方法（Moodleの活用），受入機関より学生に伝えたいこと，今後のスケジュール。

<各学科の実施報告>

機械工学科

H28年度実績，実習内容の傾向，実習先の選び方，実習事例・学生の感想（4件：技術的なこと以外の会社の業務を経験できた，利益を出すことの大変さを痛感した，自分の視野が広がった）

電気電子工学科

H28年度実績，インターンシップの時期（8月最後の週に集中），実習事例（2件），受入れ不可の理由（応募者多数），インターンシップ実施先への就職数（毎年3～4名）

電子制御工学科

H28年度実績，応募時期・書類，実施時期と場所，インターンシップ報告会（3・4年生合同），参加者の感想（インターンシップへの参加を迷っているなら，絶対参加すべき）

制御情報工学科

H27 年度実績（参加の内訳・実習先・概要・場所・期間）、事例紹介（2件）、学生の感想（今まで勉強に身が入らず成績も悪かったが、インターンシップに参加して勉強の大切さが分かり、やる気が出た）、アドバイス（自分の強みを意識する、就職に結びつく）

物質工学科

現3年の置かれている状況、インターンシップとは、参加するメリット（ミスマッチの防止）、スケジュール、H28 年度実績、事例紹介、参加学生の感想（普段の企業の様子が見られてためになる、多くの高専の先輩が働いており優秀な人が多い、専門科目が役に立っている、積極性が何より大事）

<質疑・応答>

- Q1. 大学のインターンシップは、技科大以外でも実施しているか？
- A1. 少しだが、ある（山梨大学、岩手県立大学、など）。旅費や宿泊費が出ない場合もあるので、遠方の場合は注意する。
- Q2. どのようにしてインターンシップに申し込むのか（自分でエントリーしても良いか）？
- A2. 担任教員を通じて申し込む。教員に連絡せず、学生だけでエントリーするのは認めていない。
- Q3. 公募に対して申込みの早い者を優先することだが、3月に募集している企業がある場合も申込みをして良いか？
- A3. 公募情報の学生への提示は4/1であり、3月には申込みをしない。3月中の募集は数社であり、それほど多くないので、年度が始まってから申込みを検討・開始してほしい。
- Q4. これまでインターンシップを実施してきた企業は、今年も実施するのか？また、それは昨年度までの募集状況が参考になるか？
- A4. 可能性は高いと思われる（これまで、9割程度の企業が継続して実施している）。昨年度までの募集を参考にすれば良い。
- Q5. 公募していない企業へのインターンシップは受けられるのか？
- A5. 担任を通じてその企業へ問い合わせをし、受入れ可否を確認する。

補足：この説明会は、授業（学外実習）としてのインターンシップについての説明であることに注意する（実施期間が1～3日の短期のインターンシップは、対象外）。

10. インターンシップの総括

学生の、就職活動の時期が見直されて今年度で2年目を迎えた。企業が学生に、企業の宣伝をする期間が短縮されたことで、インターンシップが単なる就労体験ではなく、就職につながる場という認識が、受入企業の募集内容や実施後のアンケートなどに見受けられるようになった。公募数が増加し、企業におけるインターンシップの実施体制もかなり整備されてきたように感じる。さらに、今年度のインターンシップが一段落した頃から、1～2日のみのインターンシップの実施案内が数多く届いている。明らかに、早期に優秀な学生を確保する動きだと思われる。しかし沼津高専としては、経団連の決めた正規の期間である3月までは就職活動を禁止しており、そのような案内は学生に提示せず、教職員間の情報共有にとどめている。しかし、学生が企業を知る期間が以前に比べて短縮されたのは事実であり、キャリア支援など学生の就職に対するサポートは、こうした企業の動きに合わせて必要であると考えます。

今年度、沼津高専におけるインターンシップは新たなサポート体制が加わった。すなわち、文部科学省が推進する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）:Center of Community」プログラムの「静大発“ふじのくに”創生プラン」事業に沼津高専が参画し、COC+事務局が設置された。それにともない、事業を推進するためのコーディネータおよびその補佐が校内に配置され、地元企業へのインターンシップ参加学生を増やすための試みが今年度より開始された。具体的には、企業に対して沼津高専の紹介や過去のインターンシップの実施状況を説明する場を設け、主としてこれまで高専の学生を対象とするインターンシップの実施経験が無い企業へ向けて、具体的な実施方法を伝えた。また、沼津高専にて「インターンシップマッチング会」を開催し、沼津高専の本科3年生を対象に、企業がその会社や実施予定のインターンシップの説明を行った。これらの活動により、インターンシップを実施する企業が増え、さらに、学生がより多くの企業に興味を持ち、インターンシップに対する具体的な実施イメージを持って参加するようになることを期待する。

今や、ほぼ全ての学生がスマートフォンを所有し、インターネットから情報を入手するのが当たり前の時代になった。企業から寄せられたインターンシップの公募情報はすべて、学生が閲覧できるWebシステムMoodle上に掲載している。Moodleには、学生がインターンシップに関する手続きに困らないように、丁寧なガイドやフローチャートがある。学生は、分からないことをすぐにスマートフォンで調べようとする。Moodleの情報を見れば、インターンシップの進め方に困ることはない。しかし教員としては常々、学生には他人を頼りにせず、もっと自分の頭で考えて行動してほしいと感じている。ぜひ、インターンシップに参加して、自分で考え、自分の力で行動し、解決することの重要性を学んでほしいと願う。

なお、本校のインターンシップは、下記に示す教職員の多大なる尽力により実施された。ここに感謝の意を表す。

インターンシップ関係教職員

機械工学科	小林 隆志 (教務主事)
機械工学科	新富 雅仁 (担任)
電気電子工学科	大澤 友克 (担任)
電子制御工学科	牛丸 真司 (担任)
制御情報工学科	芹澤 弘秀 (担任)
物質工学科	藁科 知之 (担任)
教務係長	影山 訓子
教務係	佐藤 美紀
キャリア支援室長	長縄 一智
コーディネータ	北村 則夫
事務担当	大野 君代

参考までに、平成 29 年度インターンシップスケジュール案および、学生便覧に掲載されている学外実習学生心得を以下に掲載して本報告を終わる。

平成 29 年 1 月
沼津工業高等専門学校 機械工学科
インターンシップ代表
三谷祐一朗

付録 1. 平成 29 年度インターンシップスケジュール (予定)

4 月

- 4 年新担任教員との新年度インターンシップ事前打合せ, 担当引継ぎ
- インターンシップ募集案内掲載開始 (学内 Web)
- 学科毎のインターンシップガイダンス
- 行き先希望調査

5～6 月

- 担任教員による企業への交渉
- 必要書類 (履歴書含む) 作成・企業への応募

7 月

- 事前レポート作成
- インターンシップ事前研修会 (全体・クラス毎)

7～8 月

- インターンシップ実施 (7 月中旬～9 月上旬が夏期休業 : 予定)
- 教員による視察

9 月～10 月

- 受入機関からの評価
- 参加学生のインターンシップ報告書提出・報告会 (学科毎)
- 参加学生に対するアンケート調査
- 受入機関への礼状送付・アンケート調査

1 月

- 3 年生対象インターンシップ説明会 (概要・データ紹介・反省・注意等)

2 月

- インターンシップ報告書作成・受入機関への通知
- 担任教員によるインターンシップの評価

3 月

- 単位認定

付録 2. 学外実習生学生心得

学外実習（以下「実習」という）は企業等において実際の工業技術を体得するため、専門課程の一環として履修するものであり、実習に従事する学生はこの心得を守らなければならない。

- 1) 学生は、この心得のほか必要な事項、細目について、実習開始前に学外実習指導教員の指示を受けること
- 2) 学生は、実習先の監督者の指導を受けるとともに、次に掲げる事項を守り、実習の目的を十分に達成するよう心がけること。
 - (1) 規律
 - ① 出退勤時間、休憩時間を守ること、無断で欠勤、遅刻、早退等は絶対にしないこと。
 - ② 社内規律、作業内規等の規則に従うこと。
 - ③ 学生として良識ある行動をとり、礼節を守ること。
 - ④ その他社内秩序を乱さないよう留意すること。
 - (2) 社内機密保持
 - ① 無断で設備、製品、図面等社内の写真撮影をしないこと。
 - ② 無断で指定以外の場所に立ち入らないこと。
 - ③ 許可なく、製品、研究、文献、ソフトウェア、図面、談話等を社外に漏らさないこと。
 - ④ 教員へ提出する報告には、企業秘密事項を含めないこと。
 - (3) 安全保持
 - ① 監督者の指示・説明に従い、独断で作業をしないこと。
 - ② 実習先の作業心得、安全心得をよく守り、細心の注意を払い、事故を起こさないよう心がけること。
 - ③ 万一、事故又は異常事態が生じた場合は、直ちに、監督者に報告するとともに、すみやかに指導教員に連絡すること。
 - (4) 作業態度
 - ① 監督者の指示に従い、独自の行動はとらないこと。
 - ② 実習先の社員等に対しては、努めて謙虚な態度で接すること。
 - ③ 必要以外の設備等には手を触れたりしないこと。
 - ④ 実習期間中は、毎日、作業の終了を監督者に報告すること。
 - (5) 用具の使用
 - ① 無断で社内の用具を使用しないこと。また、使用後は必ず元の場所に返しておくこと。
 - ② 許可なく物品の搬入・搬出をしないこと。
- 3) 学生は、実習期間中、常に指導教員と連絡を保つとともに、実習内容の変更があった場合は、速やかに指導教員に報告すること。
- 4) 学生は、実習終了後、実習報告書を実習先に提出するとともに、すみやかに経過を指導教員に報告すること。またその際、企業秘密事項が含まれていないかを確認すること。

学生便覧（平成 28 年度 pp.60～62）より抜粋

インターンシップ窓口
沼津工業高等専門学校 学生課 教務係
email : kyoumu@numazu-ct.ac.jp
電話 : 055-926-5733
FAX : 055-926-5882
〒410-8501 沼津市大岡 3600